パターン	対応ルール	対象薬剤例
①ATC codeが付与されていない場合	ATCレベル4まで薬効分類に従い付与 レベル5以降は順番にXA、XBと付番する (現在も流通している医薬品はATCの新規申請を行うが、販売終了品目については本ルールで設定を行う)	J01CAXA　シクラシリン（O） J01DDXX　セフチゾキシム（R） J05AEXB　バニプレビル（O）
②DDDが付与されていない場合	JDDDとし、原則として、日本の添付文書最大用量とする 体重あたりの投与量が設定されている場合は70 kgで計算する (現在も流通している医薬品はWHOにDDDの新規申請を行うが、販売終了品目については本ルールで設定を行う)	A01AB18　クロトリマゾール（SL）　JDDD=0.05 g G01AF17　オキシコナゾール（V）　JDDD=0.1 g J01CAXA　シクラシリン（O）　JDDD=2 g J01FA03　ミデカマイシン（O）　JDDD=1.2 g J01MA25　ラスクフロキサシン（P）　JDDD=0.15 g J05AEXB　バニプレビル（O）　JDDD=0.6 g J05AP58　ダクラタスビル/アスナプレビル/ベクラブビル（O）　JDDD=４UD J05AR30　ドラビリン/イスラトラビル（O）　JDDD=1UD P01BF01　アルテメテル/ルメファントリン（O）　合剤全体としての力価に対しJDDD=1.12 gと設定 ［WHOのルールに基づき計算　短期投与する薬剤に対するDDD=合計投与量/投与日数=(0.14 g/錠×4錠×6回＝3.36 g)/3日間=1.12 g］
③抗菌薬が合剤且つWHOで定めるDDDの単位が“UD”を使用していた場合	“UD”でDDDを記載	A02BD～　ヘリコバクターピロリ除菌薬　WHOの組み合わせ薬剤のDDD設定ルールに従って1日の錠数をDDDとしてUD設定 （クラリスロマイシン 400 mg製剤:10 UD、800 mg製剤:12 UD） J01CR50　アンピシリン（125 mg）/クロキサシリン（125 mg）（O）　WHO：DDD=8 UD J01CR50　アンピシリン/クロキサシリン（P）　WHO：DDD=2 UD J01EE01　スルファメトキサゾール/トリメトプリム（O・P）　WHO：DDD=4 UD J05AP57　グレカプレビル/ピブレンタスビル（O）　WHO：DDD=3 UD P01BB51　プログアニル/アトバコン（O）　WHO：DDD=4 UD
④抗ウイルス薬が合剤且つWHOで定めるDDDの単位が“UD”を使用していた場合	“UD”でDDDを記載	J05AP51　ソホスブビル/レジパスビル（O）　WHO：DDD=1 UD J05AP53　オムビタスビル/パリタプレビル/リトナビル（O）　WHO：DDD=2 UD J05AR01　ジドブジン/ラミブジン（O）　WHO：DDD=2 UD J05AR09　エムトリシタビン/テノホビル ジソプロキシル/エルビテグラビル/コビシスタット（O）　WHO：DDD＝1 UD
⑤規格が〇〇万単位の場合	DDDをMUとして処理 （1 MU=100万単位）	A07AA02　ナイスタチン（O）　WHO：DDD=1.5 MU（O）→JDDD=1.5 MUと設定（力価：50万単位製剤=0.5 MU） A07AA05　ポリミキシンB（O）　WHO：DDD=3 MU（O）→JDDD=3 MUと設定（力価：100万単位製剤=1 MU、50万単位製剤=0.5 MU） A07AA10　コリスチン（O）　WHO：DDD=9 MU（O）→JDDD=9 MUと設定 J01CE01　ベンジルペニシリン（P）　WHO：DDD=3.6 g（P）→1MU=0.6 gのため、JDDD=6 MUと設定 J01CE08　ベンジルペニシリンベンザチン（P）　WHO：DDD=3.6 g→JDDD＝2.4 MUと設定 J01CE08　ベンジルペニシリンベンザチン（O）　WHO：DDDなし →JDDD=1.6 MUと設定 J01FA02　スピラマイシン（O）　WHO：DDD=3 g（O）　→1 g=3 MUのため、JDDD=9 MUと設定 J01XB01　コリスチン（P）　WHO：DDD=9 MU（P）→JDDD=9 MUと設定（コリスチンメタンスルホン酸 1 mg=3万国際単位）
⑥酵素阻害薬の入った合剤の場合	WHOでは抗菌作用成分のDDDに従うとされているが、 流通データ・レセプトデータでは、本数データを扱うため、本マスタ上では配合比を加えJDDDと設定して対処	J01CR01　アンピシリン/スルバクタム（P）　アンピシリン＋酵素阻害薬のWHO：DDD=6 g（アンピシリンとして） →アンピシリン/スルバクタムの配合比が1：2のため、合剤全体としての力価に対し JDDD=9 gと設定 J01CR02　アモキシシリン/クラブラン酸（O）　アモキシシリン＋酵素阻害薬のWHO：DDD＝1.5 g（アモキシシリンとして） →クラバモックス®（1.01 g製剤中アモキシシリン 0.6 g/クラブラン酸 0.0429 g含有）：合剤全体としての力価に対し JDDD=1.60725 gと設定 →オーグメンチン®（アモキシシリン/クラブラン酸の配合比 2:1）：合剤全体としての力価に対し JDDD=2.25 gと設定 J01CR05　ピペラシリン/タゾバクタム（P）　ピペラシリン＋酵素阻害薬のWHO：DDD＝14 g（ピペラシリンとして） →ピペラシリン/タゾバクタムの配合比が1：8のため、合剤全体としての力価に対し JDDD=15.75 gと設定 J01DD52 セフタジジム/アビバクタム（P）　セフタジジム＋酵素阻害薬のWHO:DDD=6 g（セフタジジムとして） →セフタジジム/アビバクタムの配合比が4:1のため、合剤全体としての力価に対し JDDD=7.5 g と設定 J01DD62　セフォペラゾン/スルバクタム（P）　セフォペラゾン＋酵素阻害薬のWHO：DDD＝4 g（セフォペラゾンとして） →セフォペラゾン/スルバクタムの配合比が1:1のため、合剤全体としての力価に対し JDDD=8 gと設定 J01DH51　イミペネム/シラスタチン（P）　イミペネムのWHO：DDD=2 gとして計算（販売されている製剤の規格にシラスタチンを含まないため補正不要） J01DH56 イミペネム/シラスタチン/レレバクタム（P）　イミペネム/シラスタチン/レレバクタムのWHO：DDD=2 g（イミペネムとして） → イミペネム/シラスタチン/レレバクタムの配合比が2:2:1のため、合剤全体としての力価に対し JDDD=5 g と設定 J01DI54 セフトロザン/タゾバクタム（P）　セフトロザン＋酵素阻害薬のWHO:DDD=3 g（セフトロザンとして） →セフトロザン/タゾバクタムの配合比が2:1のため、合剤全体としての力価に対し JDDD=4.5 g と設定
⑦WHOCCでDDDが設定されているが、JDDDを用いている薬剤 （⑥に記載の薬剤を除く）	集計上、および便宜上の理由のため	J05AF07　テノホビル　ジソプロキシル（O）　テノホビル　ジソプロキシル のWHO：DDD=0.245 g →フマル酸塩製剤としてJDDD=0.3 gと設定 J05AR10　ロピナビル/リトナビル（O）　ロピナビルのWHO：DDD＝0.8 g →ロピナビル/リトナビルの配合比が4：1のため、JDDD=1 gと設定
⑧ブースターを含んだ複数規格が存在するパック製剤	パック製剤のため請求単位はシートになるが、配合比率の異なる複数規格が存在するため、集計上は力価をWHOの設定通りブースターを含まないg単位で設定し、DDDをWHOに準拠する形で設定	J05AE30　ニルマトレルビル/リトナビル（O）　ニルマトレビルのWHO：DDD=0.6 g →主成分のニルマトレビルのDDDをパック製剤のDDDとしてJDDD=0.6 gと設定

※“JDDD”はJapan DDDとしてAMR臨床リファレンスセンターで設定しました。WHO Collaborating Centre for Drug Statistics MethodologyのDDDではありません。
※薬剤名の後ろにあるカッコ内は投与経路となります。（O）：oral、経口　（P）：Parenteral、非経口　（R）：rectal、直腸投与　（SL）：sublingual/buccal/oromucosal、舌下投与/頬粘膜投与/口腔粘膜投与　（V）：vaginal、膣投与
※MU: 百万単位、UD: unit dose